

全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2019年 3月

所属&学年 | 法学部 2年生

科目名	アジア現代事情Ⅲ
海外研修先	タイ：名大バンコク事務所、チュラロンコン大学、日本関係機関・企業
海外での学習期間	2019年2月21日～3月3日

1. 履修のきっかけや動機

もともと東南アジアに興味があり、タイの仏教寺院を訪ねてみたかったこと
日本企業が海外でどのような経営をしているかを知りたかったこと
社会の先輩方に、就職とはどのようなものであるかを聞いてみたかったこと

2. 学内（名古屋）での授業・個別指導などで学んだこと、海外の研修中に学んだこと

タイの文化（知識的な面）。海外勤務がどのようなものであるのかということ
海外に駐在することが家族にどのような影響を与え、どのような問題が起きたかについて
海外における、現地の人への企業内教育
タイにおける大学生の就職活動
日本における就職活動について

3. 学外授業（タイでの研修）および生活で学んだこと

タイの食生活
タイの遺跡と歴史
タイ仏教
バンコクの発展度合

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

わからないことがあった時には、すぐに教授に連絡を取ること。
タイにおいてわからないことがあったら、現地人であるチュラロンコン大学のバディさんに確認をとること。
慣れるまで単独行動は控えること。
日本よりも危険意識をもって行動すること。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	108,000 円		振込
滞在費（授業料・宿泊費・食費・交通費・通信費）	40,000 円	= 10,000 バーツ	名大バンコク事務所へ支払
各自での食費	10,000 円	= 2,500 バーツ	現金 万円、 カード 万円
各自での交通費	7,000 円	= 1,800 バーツ	
その他（小遣い）	5,000 円	= 1,200 バーツ	現金 万円、 カード 万円
計	188,000 円		

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 80,000円 = 20,000バーツ

全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2019年 3月

所属&学年 | 教育学部 2年生

科目名	アジア現代事情Ⅲ
海外研修先	タイ：名大バンコク事務所、チュラロンコン大学、日本関係機関・企業
海外での学習期間	2019年2月21日～3月3日

1. 履修のきっかけや動機

留学は大学生のうちには経験できないことであり、長い春休みを有効に使い、奨学金も支給される名古屋大学の留学制度は利用すべきだと考えたから。様々なことを経験し、様々な人と接することは非常に重要であると考え、アジアの文化に接することは将来的にも必ず役に立つと考えたから。今回は海外の日系企業を訪問できる。企業のことを理解することは教養になるだけでなく、就活の際などにも役立つのではないかと考えた。また、タイの歴史遺産にも興味があり、アジアの歴史遺産、文化体験をできることも非常に魅力的であると考えたから。

そして、私はサッカー観戦が趣味であるが、タイの選手は非常に紳士的であり、非常に礼儀正しい印象がある。そういった人柄、町の雰囲気、宗教や習慣を実際に体験できたらいいなと考えていたから。

最後に、大学に入学してからいろいろなことに挑戦してきたが、今回の短期留学も自分を成長させてくれる絶好の機会であると考えたから。

2. 学内（名古屋）での授業・個別指導などで学んだこと、海外の研修中に学んだこと

日泰寺や旧加藤商会ビルなどでタイと日本のつながりが古くからあること、身近にタイと縁のある場所があることを知った。タイ語やタイの文化風習を学び、現地での生活に役立った。名古屋での企業のプレゼンテーションを通して、訪問先の企業を知ることができ、企業を調べることやプレゼンづくりを経験できた。

3. 学外授業（タイでの研修）および生活で学んだこと

現地の学生と一緒に交流する機会が多くあり、現地の様子や人柄を直接話して感じられる機会という貴重な機会だった。タイも日本と似たローコンテクストの文化で親しみやすい人が多いと感じた。

日系企業や施設の訪問を通して、海外でのお仕事や企業の仕組みなどを学んだ。また、こんな仕事もあるんだという新しい発見も多くあった。大使館や JETRO、Meidiator でのお話を通してタイのことをより詳しく知ることができ、異文化の人と働く上での工夫なども学んだ。

学生へのお土産で日本のものを持っていったこと。タイは暑いので 100 円均一で買った日本っぽい扇子を向こうの学生に渡したら非常に喜んでくれた。日本のお土産は何かを考えることも意外と勉強になった。

タイは物価が日本に比べ安く、学生の財布に優しい国だった。
 渡航前の準備をしっかりできるかで研修がよりよいものになるか決まる部分がある。
 準備が大事だと再確認した。
 タイでは日本のアニメなどのサブカルチャーが好きで日本に興味を持つ人が多い。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

パスポートや財布、スマホは肌から話さないようウエストポーチに入れていたが、途中からタイはそんなに治安が悪くないと思い、バッグに入れていた。人混みや町の雰囲気が変わった際はバッグを前にしていた。
 車優先の社会なので日本と同じような感覚でいると思わぬ危険があると思う。現地のことを調べ、現地のルールに従って行動することも必要。勝手な行動をせず、意識して行動すれば危険な目には遭いにくいと思う。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	円		振込
滞在費（授業料・宿泊費・食費・交通費・通信費）	円	= バーツ	名大バンコク事務所へ支払
各自での食費	円	= バーツ	現金 万円、 カード 万円
各自での交通費	円	= バーツ	
その他（小遣い）	円	= バーツ	現金 万円、 カード 万円
計	181,700 円	振り込みで 10 万円 食費・交通費・お土産で 7 万 6 千円 (奨学金で 7 万円は返ってくる予定)	

※現地通貨はいくら持参しましたか？ _____ 円 = _____ バーツ

自由記述欄

↓↓↓

- ・事前準備をしっかりしたほうが現地での時間をより上手に使えると思うのでぜひタイについてよく調べてからとこうしてください！
- ・カオマンガイとカニカレーおすすめですよ。

全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2019年 3月

所属&学年 | 法学部 1年生

科目名	アジア現代事情Ⅲ
海外研修先	タイ：名大バンコク事務所、チュラロンコン大学、日本関係機関・企業
海外での学習期間	2019年2月21日～3月3日

1. 履修のきっかけや動機

自分自身法学部に所属しており、制度や法、特に海外のものには興味があった。しかし、その制度や法を理解するためには、制度や法が作られることになったその地域・国の文化などを基礎知識として知っておかねばならない。そこで、今科目を履修してタイにおける日本とは異なった価値観・文化・習慣に触れてみようと考えた。

2. 学内（名古屋）での授業・個別指導などで学んだこと、海外の研修中に学んだこと

(ア)学内での授業で学んだこと

訪問することになる企業についてこの時までは全く知らなかったが、自分たちで訪問先の企業について調べ、発表をすることで、その企業について予備知識を入れることができた。これにより、実際に訪問した際は企業の方からのお話が理解しやすくなった上、自らが訪問先の企業で特に調べてみたいことを固めることができていたのにより訪問が充実したものとなった。

(イ)海外の研修中に学んだこと

訪問先の企業の方たちからお話を聞いていくうちに、日本とタイとは異なる価値観・文化・習慣が存在し、それがもとでタイに進出した日系企業でもトラブルが発生していることが分かった。しかし、各企業はその違いを理解したうえで、さらには違いを生かしてさらなる成果をあげようとしていることがわかった。

また、海外の学生との交流を通じて自分の語学力の足りなさを痛感した。

3. 学外授業（タイでの研修）および生活で学んだこと

タイの食文化について、タイでは料理に香辛料を多用していた。そして、この香辛料は自分たち日本人が想像しがちな辛さを求めるためのものではなく、あくまで香り付けとして使われていた。そのため、これらの香辛料のなかには食べることができないものが多かった。日本食が見た目を重視しているイメージが自分にはあるが、タイ料理は見た目よりも香りを重視しているような印象を受けた。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

- スーツケースの鍵は基本的に閉めていた。特に外出時と就寝時。
- チュラロンコンの学生から言われたことだが、食事をする際、スプーンやフォークを机に置いてはいけない。必ずお皿の上に置く。
- タイと日本では気温差が大きかったため、それを考慮したうえでの服装を渡航には持っていった。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	100,000 円		振込
滞在費（授業料・宿泊費・食費・交通費・通信費）	48,000 円	= 12,000 バーツ	名大バンコク事務所へ支払
各自での食費	38,000 円	= 9,500 バーツ	現金 4 万円、 カード 万円
各自での交通費	4,000 円	= 1,000 バーツ	
その他（小遣い）	10,000 円	= 2,500 バーツ	現金 1 万円、 カード 万円
計	200,000 円		

※現地通貨はいくら持参しましたか？

80,000 円 = 20,000 バーツ

自由記述欄

※写真を「写真でつづる留学ストーリー」に応募してもよろしいですか？ はい

↓↓↓



右の写真は有名なタイの寺院、ワット・プラケオです。多くの観光客でごった返していますが、タイの建築について触れることができるかもしれません。

全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2019年 3月

所属&学年 | 経済学部 2年生

科目名	アジア現代事情Ⅲ
海外研修先	タイ：名大バンコク事務所、チュラロンコン大学、日本関係機関・企業
海外での学習期間	2019年2月21日～3月3日

1. 履修のきっかけや動機

学部で講義で海外進出している日系企業に勤務している方の話を聞く機会が多々あり、“海外で働く”ということに興味があったため、実際にタイで企業訪問できるこの講義に魅力を感じたから。また、単純に東南アジアに行ってみたいという気持ちがあったため。

2. 学内（名古屋）での授業・個別指導などで学んだこと、海外の研修中に学んだこと

学内の授業では簡単なタイ語やタイの基本的な事を学んだ、訪問する企業について下調べをしたりした。

実際にタイを訪れて企業訪問する中で、海外で働くうえで現地の日本とは違う文化を理解し、相手を尊重して働くことが大切だと学んだ。また、日系の駐在員は比較的バンコクに対して好意的な感情を抱いており、実際にバンコクでは生活にはほとんど困らないということを知った。

3. 学外授業（タイでの研修）および生活で学んだこと

日系の駐在員や観光客が多いことから日本で見慣れたものや日本語で書かれたものを見かけることが多かった。

バイクタクシーやトゥクトゥクなど日本では見かけない交通手段もあり、それらに乗るのは面白かった。バイクでヘルメットをしていない人や3人乗りをしている人も多く驚いた。さらにタイは車優先の社会であり、車の合間をぬって歩行者は横断しなければならず、慣れないうちは怖かった。

また、タイのご飯は初めて見るようなものが多くてどれも美味しかった。特にマンゴーがたくさん売られていて、甘くて美味しかった。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

常の行動はほとんどリュックだったが、パスポートや財布は小さなカバンに入れて肌身離さず持っていた。

ヨーロッパに行ったときは女性もほとんどの人がズボンをはいていたので、タイでもスカートだと周囲から浮くかと思っていたが、服装は日本とさほど変わらなかった。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	10万円		振込
滞在費（授業料・宿泊費・食費・交通費・通信費）	約3万円	= 8600 バーツ	名大バンコク事務所へ支払
各自での食費	約1万円	= 2000 バーツ	
各自での交通費	1万500円	= 3000 バーツ	
その他（小遣い）	約1円	= 2000 バーツ	
計	約18万円		現金17万円、 カード1万円

※現地通貨はいくら持参しましたか？

4万円 = 約1万3000 バーツ

自由記述欄

※写真を「写真でつづる留学ストーリー」に応募してもよろしいですか？ はい いいえ

↓↓↓



Mango Tango のマンゴースイーツ(左)

料理教室で作ったマンゴー・スティッキー・ライス(右)

全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2019年 3月

所属&学年 | 教育学部 2年生

科目名	アジア現代事情Ⅲ
海外研修先	タイ：名大バンコク事務所、チュラロンコン大学、日本関係機関・企業
海外での学習期間	2019年2月21日～3月3日

1. 履修のきっかけや動機

タイに行きたかったこと。留学を経験してみたかったこと。

2. 学内（名古屋）での授業・個別指導などで学んだこと、海外の研修中に学んだこと

タイについて。簡単なタイ語。タイの安全情報について。
海外勤務について。日本とタイの違いについて。海外の企業内教育について。
人との接し方について。タイ料理。

3. 学外授業（タイでの研修）および生活で学んだこと

海外勤務について。日本とタイの違いについて。
海外の企業内教育について。
人との接し方について。タイ料理について。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

特になし。強いて言えば、財布を2つに分けたくらい。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	110,000円		振込
滞在費（授業料・宿泊費・食費・交通費・通信費）	45,000円	= 13,000 バーツ	名大バンコク事務所へ支払
各自での食費	15,000円	= 4,000 バーツ	現金 15000万円、カード0円
各自での交通費	5,000円	= 1,500 バーツ	現金
その他（小遣い）	1万円	= 3,000 バーツ	現金 1万円、カード0円
計	185,000円		

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 50000円 14000バーツ

自由記述欄

↓↓↓

カオマンガイ美味しいです。

全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2019年 3月

所属&学年 | 法学部 4年生

科目名	アジア現代事情Ⅲ
海外研修先	タイ：名大バンコク事務所、チュラロンコン大学、日本関係機関・企業
海外での学習期間	2019年2月21日～3月3日

1. 履修のきっかけや動機

・履修のきっかけは、全学教養科目の「キャリア形成論」にて、本講義の紹介のピラを拝見したことです。私は大学生活で一度も海外に行ったことがなく、かつもうすぐ卒業というタイミングで、大学生活の最後に思い出に残る学びを得たいと思いました。その後、履修説明会に参加し、日系企業訪問ができること知り、さらに興味を持ちました。私は4年生で、就職活動の経験を活かすことができると考え、またとないチャンスだと思い、応募しました。

2. 学内（名古屋）での授業・個別指導などで学んだこと、海外の研修中に学んだこと

・私は、学内での授業時に海外経験がなく何もかもが不安な気持ちでした。そのような私にとって学内の授業では危機管理について知る機会が多く、海外に行く際の心構えを身に着けることができましたと考えています。カバンの持ち方ひとつで「私はすりに警戒していますよ」と周囲にアピールすることができます。海外での病気について知ることで、不用意に野良犬・猫に近づかなくなり、虫よけ対策を徹底するようになります。一つ一つの授業から、学ぶべきことを学べたからこそ、タイでも元気に楽しく生活できたのではないかと考えています。

・タイ語を少し学びました。時間等の制約からタイ語を一通りマスターすることは難しいと思いますが、簡単な挨拶や話し言葉を覚えることは純粋に楽しいことです。また、現地の人にタイ語で挨拶をし、タイ語で料理を注文すると、とても優しく、かつ嬉しそうに対応してくれます。積極的に勉強すると、タイでの生活が楽しくなると思います。

3. 学外授業（タイでの研修）および生活で学んだこと

・研修中は、自らが知りたいと思ったテーマ（私の場合はタイでの人事採用戦略と学生の就職活動について）を深めるべく、現地の学生（バディさん）や企業の人にインタビューをしました。タイの企業はキャリア採用・ジョブ型採用中心で日本とは違います。キャリアを積むためにインターンに参加する学生もいます。しかし、企業にとっての人気大学や学生にとっての人気企業に偏りが見られる点は日本と何ら変わりません。日本とは違うのだろうな、と思っていたところに、同じところを見つけると「意外だな」という発見につながり、学びを深めることができます。

・日々の生活では、食べ物が豊富でかつおいしい、ということを実感しました。屋台など、一見すると衛生状態に不安があります。しかし、食器を直に机に置かないなどの最低限の危機管理ができていれば、何を食べてもおいしい微笑みの国であることが分かりました。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

・とにかく、健康第一です。けがをしない、病気にならないことです。病は気から、という言葉がありますが、タイでの生活に慣れてきたところで油断しないようにしていました。思っているよりタイは過ごしやすい国だと思います。すると「経験を積もう」と様々なチャレンジをしたくなる（余裕ができる）と思います。そういう時に限って危ないところに行ったり、変なものを食べたりしがちです。私は幸い健康に過ごせましたが、慣れない海外での生活ですから、すこしゆとりを持って過ごすくらいがちょうどいいのではないかなと思いました。加えて、大事なものは肌身離さず持っていました。ウェストポーチは常に自分の視界に入り、便利でした。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	140,000 円		振込
滞在費（授業料・宿泊費・食費・交通費・通信費）	30,000 円	=8,000 バーツ	名大バンコク事務所へ支払
各自での食費	8,500 円	=2,400 バーツ	現金 8,500 円、 カード 万円
各自での交通費	1,500 円	=400 バーツ	
その他（小遣い）	15,000 円	=4,000 バーツ	現金 1 万円、 カード 5,000 円
計	195,000 円		

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 30,000 円 = 7,700 バーツ

自由記述欄

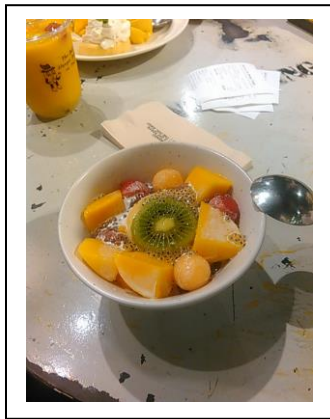
※写真を「写真でつづる留学ストーリー」に応募してもよろしいですか？

はい

いいえ

↓↓↓

・どこに行ってもご飯がおいしいです。タイといえば辛いものが有名ですが、実は甘味にもおいしいものがたくさんあります。おすすめは本場のマンゴー。毎日のように食べて幸せな気持ちになっていました。南国の果物はやはり南国で頂くのがよいですね。



←現地で有名な「マンゴタンゴ」というお店のマンゴーです。いろいろな種類の甘味があり、毎日行きたくなってしまいます。バンコクの中心地にあり、駅からも近く、外国人観光客でいっぱいです。値段は少し高めです。みんなで行って、一人一品ずつ注文し、シェアするのがおすすめ。

屋台では、豪快に肉が焼かれていました。屋台は日本人からすると低価格でおいしいB級グルメが楽しめます（タイ人にとっても日常ご飯）→



←疲れた体にタイ式マッサージが効きます。やさしいおばちゃんがパワフルにストレッチしてくれます。本場のマッサージはやはり格別です。

全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2019年 3月

所属&学年 | 教育学部 1年生

科目名	アジア現代事情Ⅲ
海外研修先	タイ：名大バンコク事務所、チュラロンコン大学、日本関係機関・企業
海外での学習期間	2019年2月21日～3月3日

1. 履修のきっかけや動機

大学生活の早い段階で海外経験をしておきたかったという思いがあり、様々なプログラムのなかから自分に合うものを探しているなかでこの研修を見つけました。もともとタイの文化に興味があり一度訪れてみたいと思っていたことに加え、文化体験だけでなくキャリアについても学べる、といったほかの海外留学にはプログラムに魅力を感じ、この研修に参加したいと強く感じました。また、参加しやすい期間・費用であり、かつ奨学金支給の可能性もあるということで敷居が低く参加に踏み切りやすかったというのも理由の一つです。

2. 学内（名古屋）での授業・個別指導などで学んだこと、海外の研修中に学んだこと

企業訪問を通じ、「海外で働くこととは」「海外に事業を展開させるために必要なこととは」を学ぶことができました。その国に順応することはもちろん、「おもてなし」に代表されるような日本の文化を武器にした戦略は非常に参考になりました。一方で、日本で事業を展開しているときと変わらず、お客様一人一人に照準を合わせたサービスの提供をしている企業さんもあり、業種や状況に合わせて文化に合わせるのか、逆に自文化を活かしていくのか、はたまた文化圏にとらわれず進めていくのか、といった選択をすることの重要性を学びました。また、駐在員の方々が異文化の中で働くことの困難に直面しながらもやりがいを感じながら仕事をしている姿がとても印象に残りました。無意識のうちに海外で働くことを将来の選択肢から外してしまっていたのですが、今回の研修を通じて自分も異文化と多く接する仕事に就いてみたいと思うようになりました。

3. 学外授業（タイでの研修）および生活で学んだこと

なんとなくタイの文化ってよさそうだなというぼんやりとした印象はあったのですが、その何倍も何十倍も魅力的な文化が詰まった国でした。食べ物は何れもおいしく、毎日の食事調達が楽しみでした。おかげでタイ料理ロスに陥っています。また、バンコクが想像していたよりもずっと栄えていたのが衝撃的でした。名古屋の街並み程度の景観を想像していたのですが、きらびやかなショッピングモールや高層ビルが立ち並び名古屋よりもはるかに栄えておりました。一方で、同じバンコクでも少し歩くと屋台が並ぶ下町が広がっていたり、またさらに行くと田園が広がっていたりと、二極化したタイの姿を実

感じました。訪問させていただいた企業さんの一つ、日系企業のタイ進出をサポートする Mediator さんから「数字だけでその国を判断せず、現状を自らの目で確かめなければならない」というお話をいただいていたのですが、それが強く実感できる体験でした。チュラロンコン大学の学生さんに手厚いサポートをしていただいたこともあり、授業外の時間も非常に充実したタイ生活を送ることができました。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

財布にはチェーンをつけてカバンにつなげていました。おかげで盗まれました。夜間はもちろん、昼間も一人で行動することは避けました。治安は悪くないと感じましたが、大きな選挙前の時期に渡航をしたので政治的にタブーな色や柄を事前に調べ、それを避けた服装を用意しました。

健康面では食べ物が合うかどうか不安だったので、整腸剤と下痢止めを日数分持っていました。(実際はひどくお腹を壊してしまうこともなく問題はありませんでした。) また、気候は日本の7月ぐらいだったので暑さ対策・日焼け対策は必須です。私の場合、汗と湿気により癬毛が暴走してしまったので気になる方はそちらの対策もするかと良いかもしれません。また、暑いとはいっても室内は冷房が効いていることがあるので一枚羽織ものを持っていくと便利かと思います。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	110,000 円		振込
滞在費（授業料・宿泊費・食費・交通費・通信費）	45,000 円	= 12,540 バーツ	名大バンコク事務所へ支払
各自での食費	20,000 円	= 5,700 バーツ	現金 2万円、カード 万円
各自での交通費	5,000 円	= 1,500 バーツ	
その他（小遣い）	30,000 円	= 8,500 バーツ	現金 3万円、カード 円
計	200,000 円		

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 50,000 円 = 15,000 バーツ

自由記述欄

※写真を「写真でつづる留学ストーリー」に応募してもよろしいですか？

はい

いいえ

↓↓↓



**アユタヤ遺跡、
バンコクの三大寺院へ！**

**きらびやかな建築物や
歴史を感じる遺跡に感動！！**



タイ料理はどれも絶品！

お気に入りはおカマンガイ→



**タイのマンゴースイーツは
日本人観光客に大人気！**



**料理教室では
トムヤムクンなどを作りました**



**にぎやかなナイトマーケット！
上から見ると
カラフルなテントが綺麗**



象乗りにも挑戦しました

バンコクで1番高いビル！

